

# 「生成 AI」の学修利用に関するガイドライン

Ver.1.0

2023.9.27

四日市大学 学長 岩崎 恭典

学生のみなさんへ

ChatGPT 等に代表される「生成 AI」(※) は、急速に利用が広まりつつあり、さまざまな場面での応用が考えられます。今後ますます技術が進み、様々な場面で活用されていくことが考えられますが、学生生活で使用するにはいくつかの注意点があります。

四日市大学では「生成 AI」(※) の使用について、一律に使用を禁止することはしませんが、大学の学修や学内外での活動等での使用には、以下の点に留意して使用してください。

(※) 「生成 AI」とは、ユーザーの指示にしたがって、文章、画像、動画、音声、プログラムコードなど様々なコンテンツを生成する人工知能のことを指します。「Generative AI：ジェネレーティブ AI」とも呼ばれ、ChatGPT, BingAI, Bard, Midjourney, Stable Diffusion 等があります。

## **1. 授業における「生成 AI」の使用可否については、授業科目担当教員の指示にしたがってください。**

皆さんが履修している科目には、それぞれ皆さんに身に付けてもらいたい知識・技能・能力などの到達目標があります。その中で、「生成 AI」を適切に使用することで、学修効果を高めることも期待できる一方、場面や使い方によっては、学生として培うべきスキルの獲得を妨げる場合があります。授業における使用の可否については、それぞれの授業科目の担当教員の指示によることとします。但し、試験や成績評価に用いられるレポート等を作成する際、指示にしたがうことなく使用した場合は、不正行為に該当するとみなされますのでご注意ください。

## **2. 「生成 AI」の回答は、誤った情報や正確でない情報が含まれていることも多いので注意してください。**

AI という言葉を聞くと即座に緻密で正確な応答をしてくれるイメージがありますが、一般的に使用できる ChatGPT などの「生成 AI」では、不正確な回答あるいは虚偽の回答を生成することが少なくありません。また、回答の根拠となる文献の提示をあわせて求めた時に、存在しない文献を捏造して回答した事例が確認されています。出力された内容を鵜呑みにすることなく、自分で信憑性を確かめる必要があります。これはこれまでのインターネット検索の場合と変わりありません。

### 3. 「生成 AI」を使用して作成されたものを、そのまま自分で作成したものとすることは「盗用」行為にあたります。

試験・レポート・課題・論文等の作成に、「生成 AI」を使用して作成されたものをそのまま、あるいは少し手を加えただけで、自分が作成した提出物とすることはできません。これは、「盗用」にあたります。「盗用」とは、インターネットで検索した内容をそのままコピー・ペーストして提出したり、友人のレポートを丸写して提出したりする行為です。「生成系 AI」の使用でもこのような行為は「盗用」とみなします。試験・レポート課題等の場合は不正行為として懲戒対象となる可能性があります。

また、内容によっては、他者の著作物が含まれている可能性があり、その利用は著作権侵害となる恐れもあります。「生成 AI」を使用した場合には、「生成 AI」の名称（ChatGPT、Bing AI など）とともに、提出物のどこに使用したかを明瞭に区別できるように記述する、どのように使用したかを記述するなど、授業科目の担当教員の指示にしたがってください。

#### **4. 個人情報などは絶対に入力しないでください。**

「生成 AI」に入力した情報は、「生成 AI」に学習され、他のユーザーの使用の際に流出してしまったり、「生成 AI」の不具合や不正などで流出してしまったりする可能性があります。したがって、個人情報や機密情報、未発表の研究成果などの入力は絶対しないでください。